



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	月刊DRF 第36号
Author(s)	デジタルリポジトリ連合; Digital Repository Federation
Description	事務局: 北海道大学附属図書館 http://drf.lib.hokudai.ac.jp/ で公開したもの
Issue Date	2013-01-11
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/73587
Type	journal
File Information	DRFmonthly_36.pdf, in Japanese





月刊 DRF

Digital Repository Federation Monthly

第36号

No.36 January, 2013

【特集1】DRF運営委員から新年のご挨拶

【特集2】平成24年度新規参加機関からのメッセージ

トピック 地域ワークショップ（東北地区）報告

謹賀新年

今年は学位規則改正に向けた審議の進展を始めとして、機関リポジトリに強い追い風が期待できそうです。この期待は我々関係者のものだけでなく、機関リポジトリに対する周囲からの期待でもあります。新たな期待を胸に、引き続き一緒に取り組んでいきましょう。

新田孝彦（委員長、北海道大学）

癸巳

あけまして
おめでとう ございます

図書館の課題は多様です。しかし、流行りに左右されることなく、継続的に取り組む姿勢が大事です。ラーニングコモンズも、OAも、図書館の課題として軽重はなく、同じ姿勢で取り組んでいきたいものです。

内島秀樹（筑波大学）

つねに、より高きものを
めざして

島文子（千葉大学）

やっぱり、コンテンツ
だよな

甲斐重武（広島大学）

リポジトリにとつて
幸多き新年であります
ように！

井上修（東北大学）



巳は伶俐な叡智を象徴し、また
家屋に巳の住まうは吉兆とされ、
貧窮を免れると謂われます。
機関リポジトリも願わくば
家内の巳と在りたいものです。

謹賀新年

BOAI-10は「OAの真実」のひとつとして、OAは現在の学術コミュニケーションシステムへの追加投資なしに回収可能であると宣しました。今年はダイエットに気をつけましょう。かつ、痩せ細ってもしまわないように。

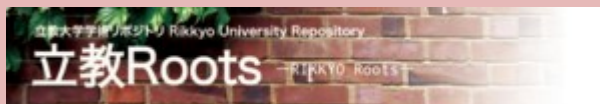
杉田茂樹（小樽商科大学）

多くの私立大学が
リポジトリを立ち上げ
られるよう、
支援をしていきたい

鈴木正紀（文教大学）

【特集2】平成24年度 新規参加機関からのメッセージ

平成24年4月以降の新規参加機関18機関のうち、12機関からメッセージをいただきました。



4年越しの宿願が叶い、12月7日に公開しました。
学内外の多くの方々に感謝の気持ちで一杯です。
ようやくスタートラインに立ったばかりですが、
今後「学内の知の集積庫」として、徐々に機能
拡大を図っていきたいと考えています。

平澤友貴（立教大学）
<https://rikkyo.repo.nii.ac.jp/>



謹賀新年

本学は、昨年から機関リポジトリの準備を進めて
おり、間もなく公開できる状態になりました。
2013年は、本学にとってのリポジトリ元年になり
ます。
DRF関係の皆様には、今後ともより一層のご指導
ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

宮坂昌樹（愛知大学）

今年学内協議を行い、1年をかけて、
機関リポジトリの起ち上げを行いたいと
思っています。

林成吾（岡山理科大学）

今年夏過ぎのIR公開を目指しています。
まだ、IRの名前やロゴも決まっていません。
素敵なアイデアを募集中です。
みなさんに利用されるIRづくりを目指します。

鷲見恵美（名城大学）



さらなる飛躍を!!

学術流通の世界では大きな変化があった2012年が過ぎ、
新しい年を迎えました。昨年6月からリポジトリの担当となり、
まだまだ初心者マークのままですが、新しい動きを図書館
から創っていくことができるよう、今年もいろいろな知識を
吸収してがんばります!!

天野由貴（椙山女学園大学）
<http://ir.lib.sugiyama-u.ac.jp/dspace/>



ぎんまるくん

宮崎学園図書館学術リポジトリ、まだまだ
「これから...」のリポジトリです。
どうぞ、末永くよろしく願い申し上げます。

山元奈々（宮崎国際大学・宮崎学園短期大学）
<https://meilib.repo.nii.ac.jp/>



ぎんまるくん
羽織袴スタイル

薬学系の小規模な単科大学です。機関リポジトリの「き」の字も話題になっていないのが本学の現状です。近い将来必ず取りざたされる事項であり、それが図書館担当となるかは不明ですがDRFの活動に接することで少しでも力を蓄えておきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

土橋幸恵（北海道薬科大学）



はじめまして。小さな大学、上越教育大学の下城です。リポジトリも小さいですが、2008年にひっそりと持ち上げて以来、できることからやっています。さて、現在リポジトリのコンテンツの大半が紀要です。そこで、今後は紀要以外のコンテンツを増やしていきたいです。

下城 陽介（上越教育大学）
<http://repository.lib.juen.ac.jp/>

あけましておめでとうございます。
昨年はDRFに参加させていただき、
ありがとうございました。
今年もよろしくお願い申し上げます。

千葉裕（東北学院大学）



あけましておめでとうございます。
小規模図書館ですが、今年の干支の
へびのように壁にぶつかりながらも
地べたを這ってリポジトリの充実に
頑張りたいと思います。

竹重みさ子（長野大学）
<https://nagano.repo.nii.ac.jp/>



一橋大学機関リポジトリ2013年の抱負
多くの研究者にとって本当に役立つ
機関リポジトリを目指す！

阪口幸治（一橋大学）
<http://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/>

リポジトリをきっかけに交流の輪を広げ、
研究者にリポジトリに登録したいと思われる
ような活動をしていきたいです。

水野里永子（文化学園大学）
<http://dspace.bunka.ac.jp/dspace/>



DRF-Fukushima



小山憲司



西戸雅博



山田奈々



加川みどり



林和宏

- 講演「研究者から見たリポジトリ」
日本大学文理学部 准教授 小山憲司
リポジトリとオープンアクセスの関係、ILL分析による情報利用行動の実態、学術情報の消費者・生産者という研究者の2つの立場から、リポジトリに対する研究者の評価を解説。
- 事例発表（1）リポジトリ導入事例
 - ・ 福島県立医科大学附属学術情報センター 西戸雅博
 - ・ 青森県立保健大学附属図書館 山田奈々
 - ・ 神戸松蔭女子学院大学図書館 加川みどり
 Dspace、XooNlps、JAIRO Cloudそれぞれの特性、導入時の準備、他大学担当者とのつながりやコミュニティなど。
- 事例発表（2）リポジトリ原則登録のルールづくり
 - ・ 名古屋工業大学附属図書館 林和宏
 ルールづくりまでの制度設計や学内合意形成などの道のり。
- 分科会（テーマ別4グループ）
 - ・ 研究者へのアプローチ・コンテンツ収集
 - ・ リポジトリの構築（検討）状況～構築・導入に向けた準備とは？

発表資料はDRF-Wikiに掲載

<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?DRF-Fukushima>

参加者の感想（抜粋）

36名の方にご参加いただきました。リポジトリ未構築館の方が約半数となりました。



- ・ とても元気づけられるとともに、最初だけでなく、継続して教員にアプローチするべき！というお言葉、肝に銘じて実行していきたいと思います。
- ・ どの事例発表も、とても分かりやすかったです。後半、時間がなく、少しかけ足気味だったのが残念でした。それぞれのメリット・デメリットを知ることができてよかったです。



分科会

次回DRF地域ワークショップ（中国・四国地区）参加申込み受付中！

平成25年2月1日 e-とびあ・かがわ

DRF-Kagawa

「頼れるリポジトリ運営のかたちとは」をテーマに、中国・四国地区における共同リポジトリにスポットを当てます。

<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?DRF-Kagawa>

【次号予告】2月号 月刊DRF三周年記念特集
CAIRSS会合報告ほか

Facebook はじめました。



月刊 DRF 読者アンケート受付中！

<http://www.facebook.com/DigitalRepositoryFederation>
http://drf.lib.hokudai.ac.jp/gekkandrf_inq.html
月刊 DRF <http://drf.lib.hokudai.ac.jp/gekkandrf>

月刊 DRF では、みなさまからのお便りをお待ちしています。
gekkandrf@gmail.com

月刊 DRF 第36号 平成25年1月11日発行
デジタルリポジトリ連合